

（一般屋内用）

品番

**FSG (FSGH) 42700A**

※上記（ ）内は加工品番です。（以降、加工品番の記載を省略します。）

・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

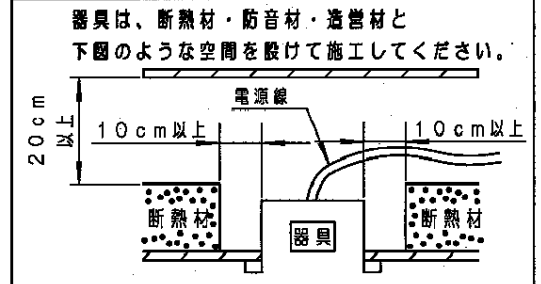
### 施工説明

工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

### 安全に関するご注意

#### 警告

- 施工は、施工説明にしたがい確実に行う。  
施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。
- 断熱材、防音材をかぶせて使用しない。火災の原因となります。
- 器具を改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 天井埋込専用ですので、壁取付や天井直付はしない。  
落下・感電・火災の原因となります。
- 表示された電源電圧（定格電圧±6%）・周波数で使用する。  
指定外の電源電圧・周波数で使用すると、感電・火災の原因となります。
- 蓄電池を短絡・分解等しない。破裂・火傷・感電・火災の原因となります。

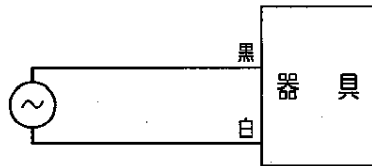


#### 注意

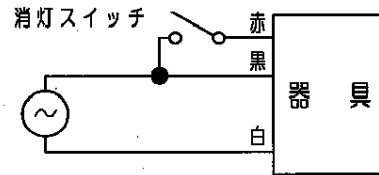
- 直射日光の当たる場所、湿気が多い場所、振動の強い場所、雨水のかかる場所、風の強い場所、腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。
- 周囲温度は、5～35℃で使用してください。指定外の周囲温度で使用すると、蓄電池の劣化、ちらつき、短寿命及び非常点灯しない原因となります。

#### 配線種類

・常時消灯しない場合（2線式）



・常時消灯する場合（3線式）



（端子台の赤色短絡線を取り外す。）

# 各部のなまえと取付方法

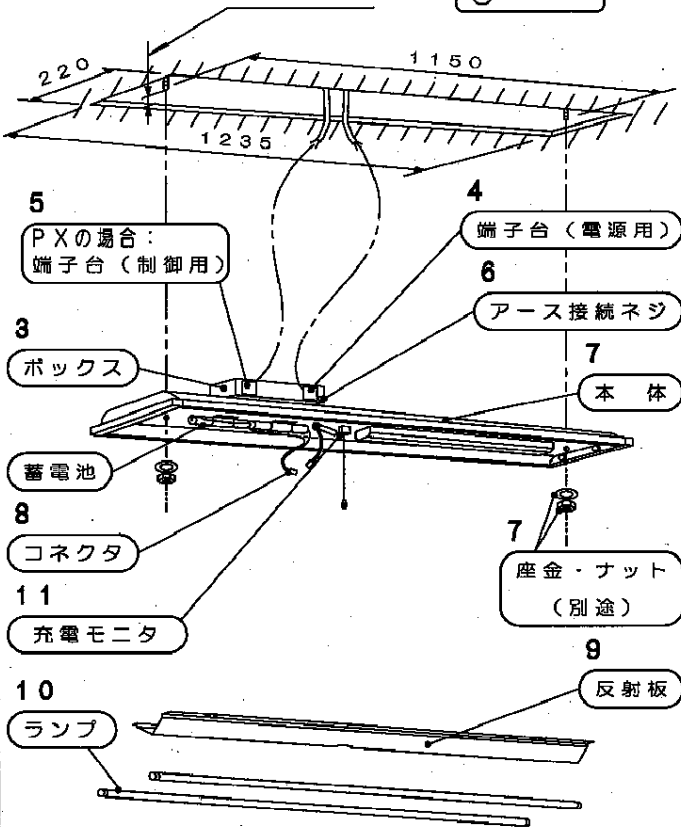


施工は、施工説明書にしたがい、確実に行う。  
 施工に不備があると、火災・感電・落下の原因となります。

同梱部品



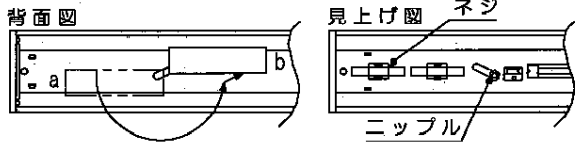
ボルト引込しろ  
0~10mm



## 3. ボックス移動方法

(PF・PH・PN方式の場合)

- 1) ネジをゆるめる。
- 2) ボックスを持ち、下図のaからbの位置へ移動させる。
- 3) 移動後、再びネジを締め、ニップルを増し締めする。



必要以上に回転させないでください。  
 断線する恐れがあります。

## 1 1 点灯確認

- ・電源通電状態で、ランプ及び充電モニタが点灯するか確認する。
  - ・点検スイッチを引き、非常点灯を確認する。(充電モニタは消灯します)
- 正常に動作しない場合は「故障かな?と思ったときは」の項を参照してください。

## 1 取付前の確認

- ・器具質量(5.0kg)に十分に耐えるよう、取付ボルト取付部の強度を確保する。(取付ボルトは、W3/8又はM10を使用する。)
- ・不備があると器具落下の原因となります。

## 2 埋込穴の開孔

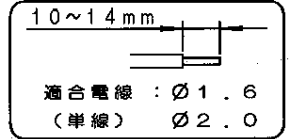
- ・埋込穴、取付ボルトを図のように用意しておく。

## 3 ボックスの確認(PF・PH・PN方式の場合)

- ・ボックスがCチャンネルに当たらないか確認する。
- ・ボックスがCチャンネルに当たる場合は、ボックスを移動させ回避する。(左下図参照)

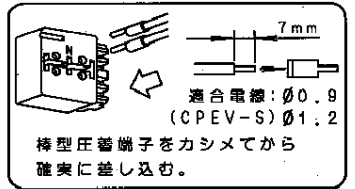
## 4 電源線の接続

- ・電源線を確実に差し込む。
- ・D種(第3種)接地工事が必要。
- ・端子台の容量は、20Aです。(送り機能付)
- ・接続が不完全な場合や容量オーバーの場合、火災の原因となります。



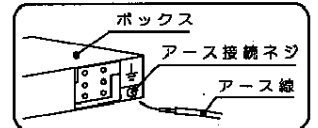
## 5 制御線の接続(PX方式の場合)

- ・制御線を確実に差し込む。
- ・接続が不完全な場合、火災の原因となります。



## 6 アース線の接続

- ・アース線をアース接続ネジに確実に取付ける。
- ・接続が不完全な場合、感電・火災の原因となります。



## 7 本体の取付

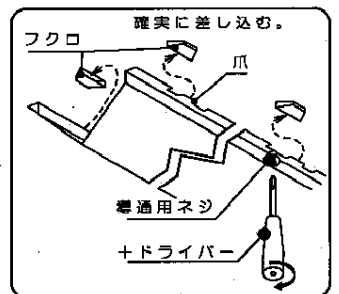
- ・本体を取付ボルトに確実に取付ける。(推奨トルク値0.8N・m)

## 8 コネクタの接続

- ・常用電源通電後、コネクタを接続する。
- ・方向を合わせ確実に奥まで差し込む。
- ・接続が不完全な場合、非常点灯不点の原因となります。

## 9 反射板の取付

- ・充電モニタと反射板の穴の位置を合わせる。
- ・点検SWを穴に通す。
- ・本体の導通用ネジ穴と反射板のスリットの方を合わせ本体のフクロに反射板のツメを差込み確実に取付ける。
- ・取付が不完全な場合、反射板落下の原因となります。
- ・同梱の導通用ネジを締付けて反射板を確実に取付ける。(推奨トルク値0.5N・m)
- ・取付が不完全な場合、感電の原因となります。



## 1 0 ランプを確実に取付ける

- ・ランプをソケットにセットしてから、90°回転させる。
- ・取付けが不完全な場合、ランプ落下の原因となります。

・ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

## 安全に関するご注意



警告

- 器具を改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり、変な臭いがあるなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事に修理を依頼する。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。



注意

- ランプ交換やお手入れの際は、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。
  - アルカリ系洗剤は使用しないでください。強度低下による破損の原因となります。
  - 蓄電池を加熱したり、火や水の中へ入れたりしないでください。破裂する危険があります。
  - 蓄電池は絶対に分解しないでください。火傷、感電の原因となります。電池内の液は皮膚や衣類をいためず。
  - 蓄電池のショートは絶対にさけてください。破裂・火傷・感電・火災の原因となります。
  - 照明器具には寿命があります。(※1)
- 法令に基づいて定期的な点検を実施してください。点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災などにいたる場合があります。
- 1年に1回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。3年に1回は工事店等の専門家による点検をお受けください。(チェックシート番号: CLX2021BA) 点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災に至る場合があります。

※1 照明器具は、使用条件、使用環境で異なりますが、8~10年が取り替え時期の目安です。但し、蓄電池は4~6年です。  
使用条件は、周囲温度30℃、1日10時間点灯です。

## 使用上のご注意

- ・ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離れてご使用ください。雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
- ・同時通訳器等の誘導無線をご使用になられる場合、雑音が入る場合があります。事前に確認し、対策を講じてください。
- ・周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。
- PF方式の場合、
  - ・タイマーセルコン器具は自動初期照度補正機能付照明器具です。定格出力の約70%の光束を保つように設計されています。
  - ・電源投入から数秒後に調光状態(初期照度補正状態)となります。始動時の数秒間は明るさが異なりますが異常ではありません。
- 2灯用器具の場合、1本のみ交換では適正な明るさが得られません。
- ・ランプや安定器のパラツキ、経年変化等により輝度差、色ムラが若干目立つことがあります。異常ではありません。
- ・ランプや器具の汚れについては補正しませんので、定期的な清掃をおすすめします。

## 累積点灯時間のリセットについて

この器具は累積点灯時間を記憶しながら、点灯時間に応じた光束減退特性に基づいて、照度補正を行っています。従って、新しいランプに交換される際、累積点灯時間をリセットする(累積点灯時間の記憶値をゼロにする)必要があります。ランプ寿命となった場合(自動リセットについて)

この器具には、ランプ寿命を判断する機能が付いていますので、新しいランプへの交換と同時に自動的に累積点灯時間をリセットします。後述の手動リセットは不要です。

ランプ破損等、寿命以外で交換する場合(手動リセットについて)

ランプ寿命前にランプ交換をされる場合、自動リセットが作動しませんので、手動によるリセット操作が必要となります。

手動によるリセット操作方法は以下の通りです。

1) ランプを取り外す。 2) 電源ON(1~2秒)→OFF(3秒以上)を3回繰り返す。 3) 交換ランプを取付ける。

手動によるリセット操作が正しく行われていれば、ランプ取り付け後の電源ON10秒後に調光開始します。

- ・停電等による電源遮断時も累積点灯時間は保持されますので、自動初期照度補正機能は電源再投入後も正しく動作します。
- ・周囲温度が約5℃~約10℃で使用される場合、始動時に移動騒音が発生することがございますが、数秒~数十秒で解消いたします。
- ・調光機器などとの組合せはできません。
- ・照明器具2台以下で、ぼたるスイッチと組合わせて使用する場合は、手動リセットが動作しない場合がありますので、スイッチは2箇所までとしてください。

## お手入れ・ランプ交換

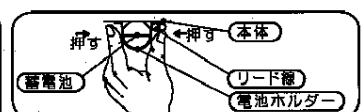
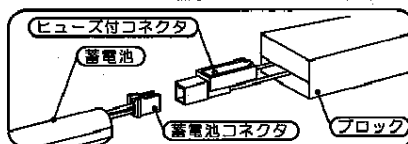
- ・器具の清掃について・・・水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。変色・変質、強度低下による破損の原因となります。
- ・ランプ交換について・・・本体表示にしたがって、下記の指定された部品を使用してください。(パナソニック製蛍光ランプをご使用ください。)

交換部品

蛍光ランプ	蓄電池
FHF32EX-N-H	FK748 (7.2V 3000mAh)

- ・蓄電池交換方法・・・下図を参照のうえ確実にこなってください。

1. ランプをはずす。
2. 反射板をはずす。
3. 蓄電池を交換する。
  - ・蓄電池コネクタを抜く。・電池ホルダーをはずし、蓄電池を交換する。
4. 蓄電池を取付ける。
  - ・はずした手順と逆の手順で確実に取付ける。
  - ・リード線を電池ホルダー外側の側面に収納する。
  - 電池ホルダーでリード線をきずつけないこと。
  - 感電・火災の原因となります。
  - ・蓄電池コネクタは確実に差し込む。
  - 接続が不完全な場合、非正常点灯不点の原因となります。



注意

- 感電のおそれあり  
ランプ交換時は、必ず電源を切ってください
- やけどのおそれあり  
点灯中や消灯直後はランプやその周辺をさわらないこと

## 保証について

- ・保証について・・・この商品の保証期間は1年間です。但し、安定器は3年間です。  
ランプ・電池などの消耗品は除きます。詳細は弊社カタログをご参照ください。
- ・保証書について・・・保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へお申し出ください。
- ・補修用性能部品の保有期間・・・弊社はこの照明器具の補修用性能部品（電気部品）を製造打ち切り後、6年間保有しています。  
補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

◆定期点検 3ヶ月に1回は、破損・変形などの外観の点検をお薦めします。  
6ヶ月に1回は、外観点検と機能点検を併せて行ってください。  
(点検については、誘導灯は消防法令、非常用照明器具は建築基準法令に定められていますので必ず実施ください。)

◆設置年月日 年 月 日 ◆取付場所 ◆器具No.

点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者
	外観	機能			外観	機能			外観	機能	

## 故障かな?と思ったときは

表に従ってお問い合わせいただき、なお異常がある場合は、すぐに電源を切り、工事に修理を依頼してください。

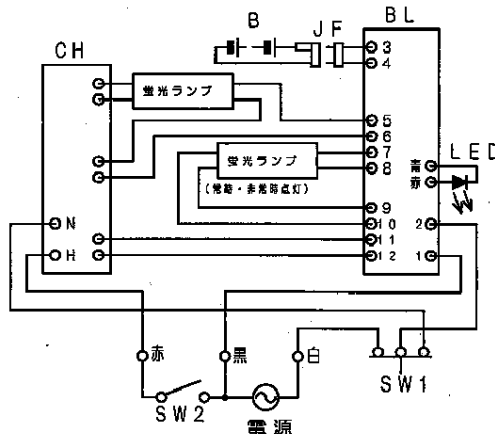
現象	考えられる原因	処置
常時、蛍光ランプが点灯しない	蛍光ランプの寿命	ランプ交換する
	消灯スイッチOFF	スイッチをONする
非常点灯しない	蓄電池コネクタはずれ	コネクタ接続する
	AC電源が通電状態となっていない	AC電源が通電状態とする
短時間しか点灯しない (30分未満)	蓄電池の充電不足 (保管時の自然放電や、施工時の放電など)	48時間以上充電する
	蓄電池の寿命	蓄電池交換する
充電モニタが点灯しない	蓄電池コネクタはずれ	コネクタ接続する

## 器具定格・接続図

<FSG42700A> 定格

起動方式	P N	P H	P F
ランプ	AC100-242V	AC100-242V	AC100-242V
FHF32EX -N-H	入力電流	0.73-0.30A	0.94-0.39A
	入力電力	72-70W	93-91W
	非常時光束	2110lm	2110lm

接続図



### 部品の記号と名称

- BL : ブロック
- CH : 安定器
- JF : ヒューズ付コネクタ
- B : Ni-MH蓄電池
- SW1 : 点検スイッチ
- SW2 : 常時消灯スイッチ
- LED : 充電モニタ  
(発光ダイオード)



Ni-MH

この器具には、ニッケル水素蓄電池を使用しております。

ニッケル水素電池はリサイクル可能な資源です。ニッケル水素電池の交換、及びご使用済みの電池の廃棄に際しては、ニッケル水素電池を取り出しリサイクルにご協力ください。

パナソニック株式会社 ライティング機器ビジネスユニット

〒571-8686 大阪府門真市門真1048

お問い合わせ先 パナソニックお客様相談センター 0120-878-365 (フリーダイヤル) 0120-878-236 (FAX)

MN0903-131213